

## 最近経験した成人百日咳症例の検討

にし の やす お  
西 野 泰 生

キーワード：成人百日咳，臨床症状，血清抗体価，  
凝集素価，抗 PT，FHA 抗体

### 要 旨

成人百日咳 5 症例（2002年，04年各 1 例，07年 3 例）について検討した。年齢的には20歳～59歳（中間値39.5歳），全症例とも遷延する咳発作に悩まされたが重病感がないため，5 例中 3 例は受診までに 1 か月以上を要しており，この間濃厚な感染源となったと考えられた。診断は各症例とも血清診断によったが，いずれも初診時すでに凝集素価は上昇しており，4 倍以上の有意上昇例は 1 例のみであった。そのほか 3 例について EIA 法による抗 PT 抗体，抗 FHA 抗体を検索したが，PT 抗体上昇は 2 例，抗 FHA 抗体は 3 例に認められた。しかし抗体検査の判定法については今後さらに検討が必要と考えられた。治療は全例クラリスロマイシン 400 mg/日，分 2 で 7～14日間投与したが，治療後 2～3 週間で咳発作は軽快している。今後は成人を含めた百日咳予防対策の強化充実を望みたい。

### はじめに

百日咳は乳幼児の重要な感染症の一つであるが，近年予防接種の普及により発生数は激減し，一般臨床では関心の薄い疾病となっている。しかし一方では成人百日咳の増加が指摘されており，最近では麻疹とともに成人の感染症として話題になっている<sup>1)</sup>。成人百日咳は一般に重病感がないため医療機関への受診が遅れ 1 か月以上経過してから受診するものが多く，その間乳幼児の濃厚な

感染源となっている可能性は否定できない。特にワクチン未接種の幼若乳児にとっては時に致命的であり，疫学的にも多くの問題を提起している。今回は最近経験した成人百日咳症例を通して本症の問題点を検討したので報告する。

### I. 対象，検査法

2002年から2007年に経験した20歳から59歳までの成人百日咳 5 症例を対象とした。性別では男性 3 人，女性 2 人であり，季節的には 4 月から 8 月にみられた。各例とも百日咳が想定された時点で白血球数，血液像を検査，さらに百日咳凝集素価を東浜株（ワクチン株），山口株（流行株）につい

Yasuo NISHINO

西野小児科アレルギー科医院

連絡先：〒690-0056 松江市雑賀町433